



執筆用の勝負服



タイで買った宋胡禄

衣食住が自分なりの好みで満ち足りていないと、
精神までいじけてさもしくなってしまう人間なのです。

「手袋をさがす」「夜中の蕎麦」



「うまいもの」の葉を入れていた「う」の抽斗

向田邦子は、ライフスタイルも注目される作家です。
向田は35歳の時に一人暮らしを始め、41歳の時に東京・南青山の
マンションの一室を購入。この家で執筆用に仕立てた服を着て仕事をし、
趣味で集めた骨董の器で食事を楽しみ、気に入りの絵画や壺に囲まれて
猫と暮らしました。作家という居職、そして凝り性の彼女は、

家で時間を自分流で楽しみました。

本展では、そんな向田のライフスタイルを

「衣・食・住」に分け、エッセイや関連資料でご紹介します。

新型コロナウイルスの流行以来、自宅での過ごし方が

見直されてきました。今、改めて

向田流の「家時間」を参考にしてみてはいかがでしょうか。



水羊羹の皿
(小山岑一作)



南青山のマンションに住み始めた41歳頃



リビングに飾っていた長谷川利行の油絵

主な展示資料

勝負服、肩掛け(エリザベス)、水羊羹の皿、「う」の抽斗、藤田嗣治「猫十
態 眠る猫」リトグラフ、長谷川利行画「少女の顔」、中川一政画「もう我は
駄目だと思ふ時もある やってゆかうといふ時もある」、宋胡禄、「縦の会」
原稿 ほか

※変更になる場合があります

関連イベント

ギャラリートーク

担当学芸員が展示内容を解説します。

- 日時/2022年12月3日(土) 13時30分～
- 場所/かごしま近代文学館 常設展示室2階
- 定員/10名程度(先着)

※参加には、企画展観覧券(一般300円)が必要です。
※新型コロナウイルスの感染拡大状況により変更・中止する場合がございます。
※最新の情報は館ホームページでご確認、またはお問い合わせください。

向田邦子 (1929-1981)

東京府荏原郡世田ヶ谷町若林(現・東京都世田谷区若林)生まれ。10歳の時、保険会社に勤める父の転勤に伴い、鹿児島で2年3か月を過ごす。1947(昭和22)年に実践女子専門学校(現・実践女子大学)国語科に入学。卒業後は、広告会社の社長秘書から映画雑誌「映画ストーリー」の編集者を経て、29歳で初めてテレビドラマ「ダイヤル110番」の台本を執筆。ドラマ「時間ですよ」「だいこんの花」「寺内貫太郎一家」など多くの作品を生み出し、ホームドラマのゴッドマザーと呼ばれるようになる。

1976(昭和51)年、エッセイの連載を開始。これをまとめた『父の詫び状』が出版され、話題を呼ぶ。1980(昭和55)年、「小説新潮」に連作短編小説「思い出トランプ」を連載。この中の「花の名前」「かわうそ」「犬小屋」の3編により第83回直木賞を受賞。1981(昭和56)年、エッセイ執筆のため台湾を旅行中に、航空機事故により51歳でこの世を去る。

かごしま近代文学館

〒892-0853 鹿児島市城山町5番1号
TEL.099-226-7771 FAX.099-227-2653
https://www.k-kb.or.jp/kinmeru



新型コロナウイルス感染症対策へのお願い

※ご来館の際は、来館者カードの記入、手指消毒、検温、マスクの着用にご協力をお願いいたします。
※会場内の密を避けるため、入場制限を行う場合がございます。
※感染拡大状況により中止する場合がございます。
※最新の情報は館ホームページでご確認、またはお問い合わせください。



アクセス

鹿児島中央駅から

- 市電/2系統鹿児島駅行き「朝日通」下車、徒歩7分
- バス/天文館、市役所方面行き「金生町」下車、徒歩7分
- カゴシマシティビュー/「西郷銅像前」下車、徒歩3分
- 車/約10分

鹿児島空港から

- リムジンバス/鹿児島市内行き「金生町」下車、徒歩7分
- 高速自動車道をご利用の場合/鹿児島北インターチェンジより鹿児島市内方向へ約15分

駐車場の案内(無料)

- 来館者用駐車場/13台(軽9台、一般車2台、身障者用2台)
 - 近代文学館メルヘン館・美術館共用駐車場/普通車31台
- ※駐車券を総合案内までお持ちください。

